１．件名：福島第一原子力発電所における循環注水冷却・滞留水等に係る定例会
２．日時：令和３年５月２１日（金）１０時３０分～１２時００分
３．場所：原子力規制庁　１８階会議室
４．出席者
原子力規制庁
原子力規制部　東京電力福島第一原子力発電所事故対策室
知見主任安全審査官、新井安全審査官、久川係員、髙木技術参与
澁谷企画調査官、大辻室長補佐、高松専門職、横山係長（テレビ会議システムによる出席）
福島第一原子力規制事務所
坂本原子力運転検査官（テレビ会議システムによる出席）
東京電力ホールディングス株式会社　福島第一廃炉推進カンパニー
福島第一原子力発電所　担当８名（テレビ会議システムによる出席）

５．要旨
- 東京電力ホールディングス株式会社から、資料に基づき、以下の説明があった。
  - 汚染水対策スケジュール、水処理設備の運転状況等について
  - 除染装置スラッジ回収装置搬入用仮設構台設置に伴う準備工事（以下「準備工事」という。）について
    - ✓ 準備工事において、当該仮設構台を設置する場所を確保するため、除染装置の廃スラッジを貯留した貯槽Ｄの崩壊熱除去用に設置している熱交換器用の空冷チラー循環水ライン等を撤去することから、一時的に熱交換器の使用が不可能になる。
    - ✓ 一方で、貯槽Ｄの水温は、2012 年以降、熱交換器を運転していない状態において、実施計画上の管理値 25℃程度を超えない状態にあり、準備工事による水温維持への影響は極めて少ないことから、本工事を進めたい。
      ただし、万が一貯槽Ｄ内の水温が上昇するような非常時には、一時的に撤去した配管等を復旧する。
    - ✓ 準備工事に伴う影響箇所について
    - ✓ 貯槽Ｄの水温推移について
    - ✓ 撤去工事スケジュール
  - ５・６号機滞留水設備フランジタンク漏えい状況について
    - ✓ フランジタンクの漏えい状況について
    - ✓ 原因、対策、工程表（案）
      - ✧ フランジタンクの漏えいの原因は、地震の影響を含め、シール部の経年劣化等の影響によるものと推定している。

- 原子力規制庁は、上記説明を受けた内容について確認するとともに、
  - 多核種除去設備等の運転状況及び運転計画において、運転を停止としている系列について、トラブル又はメンテナンスによるものなのかなど、停止の理由を今後の説明資料に記載すること。
  - 廃スラッジを内包している貯槽Ｄの水温について、温度管理値を 25℃程度としている根拠を説明するとともに、管理値を逸脱した場合の影響を整理して説明すること。
  - 準備工事中の非常時の対応について、一時的に撤去した配管等の復旧に要する設備、時間等を説明すること。また、空冷チラー等が恒久的に不要と判断するタイミング、その後の扱いを説明すること。

- 2012 年以降、熱交換器を運転していないが、空冷チラーは稼働できる状態にあるのか、メンテナンスの実施状況を説明すること。
- 貯槽Ｄの過去 10 年間の水温推移において、水温変動は外気温によるものとしているにもかかわらず、毎年 11 月付近が最高温度となっている理由を説明すること。また、スラッジの崩壊熱による寄与についても説明すること。
- 本年２月１３日以降に発生したフランジタンクの漏えい事象について、これまでに発生した地震や講じてきた対策の経緯を含めて説明すること。
- 現状推定としているフランジタンクの漏えい事象の原因及び漏えい防止対策（案）については、社内での検討が固まり次第説明すること。

等を求めた。

６．その他

資料：

- 汚染水対策スケジュール
- 水処理設備の運転状況，運転計画（２０２１年５月１４日～２０２１年５月２７日）
- 福島第一原子力発電所の滞留水の水位について（２０２１年５月１４日～２０２１年５月２０日）
- 除染装置スラッジ回収装置搬入用仮設構台設置に伴う準備工事について
- ５・６号機滞留水貯留設備フランジタンク漏えい状況について